

インベスターデイ 2022 天然ガス・LNG 事業戦略 質疑応答

開催日： 2022年12月2日（金）

回答者： 代表取締役常務執行役員 松井 透

<質問1>

LNGトレーディングの取扱数量がこの3~4年で急速に伸びてきていますが、どのような背景で増えてきているのか、また今後の見通しについて教えてください。

<松井>

LNG業界における変化が、一番大きな理由ではないか思います。当社は1970年代にアブダビ、その後西豪州、カタール、サハリンといったLNGプロジェクトに参画してきましたが、LNGは火力発電のベースロード電源用の燃料として、長期に亘りお客様にコミット頂いたまとまった数量を供給する、というのが、従来のビジネスモデルでした。各LNGプロジェクトからの余剰数量をお客様の契約上のオプションとして追加で供給する、或いは逆にお客様のニーズに合わせて供給数量を減らすような需給調整が行われてきました。一方、昨今LNG需要拡大、並びにグローバルベースでLNG供給プロジェクト増加、更にはLNG船の隻数も増加する中で、余剰数量のスポット或いは短期契約が一部需給調整を果たしている状況です。そのような業界の潮流に沿う形で、当社として参画するプロジェクトのLNGを自己名義で引き取る場面も出てきています。また、参画するプロジェクトに加え、第三者からのオフテイク契約もあります。中でも、当社トレーディング取扱数量が増加している大きな要因の一つは、当社が事業参画するキャメロンLNGプロジェクトからの引取契約です。

<質問2>

エネルギートランジションを進めていく中で、LNGを中心とした事業ポートフォリオからアンモニア、CCSといった新規事業への移行についてどのような時間軸をイメージしているか教えてください。

<松井>

天然ガスとLNGは、世界のエネルギートランジションにおいて重要な役割を担い続けると考えています。時間軸を明示するのは難しいですが、2050年に向けて行われるだろうと思います。一方で、天然ガスやLNG事業における低炭素化の取組も進んでいて、今後も重要なエネルギー源の一つであり続けると考えます。例えばLNGプラントから排出されるCO₂を回収し貯留することでLNGをライフサイクルの中でよりクリーンなエネルギーにしていく動きが出ていますし、LNGの需要家サイドでも発電時に発生するCO₂対策が行われています。

ご紹介したアンモニアの領域では、将来的な発電や海上輸送の燃料用途として使われていく動きも既に始まっており、エネルギートランジションの中で需要は増えていくと考えています。アンモニアやCCS事業では、当社のコア事業であるLNGやE&Pで培った知見に加え、本邦向けアンモニア輸入シェア60%とい

う化学品部隊の圧倒的な強みも組み合わせたいと考えています。これはコア事業と新規事業を並行的に推進していく方針で、その結果、事業のポートフォリオの分散化に繋がり、様々な環境変化にも対応していけるのではないかと考えています。

以上